

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 岩佐 健史

本研究は、虚血性心疾患の高リスク症例における動脈硬化指標と日常作業活動度の意義を明らかにするため、経皮的冠動脈形成術・ステント留置術を施行された 206 例を平均 643.8 日間フォローしたものであり、下記の結果を得ている。

1. 206 例の年齢は 68.0 ± 9.1 歳、男性比率 80.6%であった。合併疾患としては、高血圧症 66.0%、糖尿病 53.4%、脂質異常症 77.1%であった。糖尿病群と非糖尿病群では背景因子に差がなかった。
2. 初回 CAVI は、全体で 9.29 ± 1.07 、非糖尿病群で 9.14 ± 1.03 、糖尿病群で 9.46 ± 1.09 であった。糖尿病群の CAVI は、非糖尿病群の CAVI と比較し有意に高値であった ($p=0.0301$)。
3. 初回 CAVI と CAG 結果に関しては、非糖尿病群のみにおいて、CAVI が高いと多枝病変が多い傾向 ($p=0.0096$) が認められた。初回 CAVI と心血管イベントに関しては、糖尿病群・非糖尿病群いずれにおいても、有意な相関を認めなかった。
4. CAVI の検査間格差として一般に許容される 5%にあたる 0.4 以上減少した群を CAVI 改善群、CAVI の変化量が 0.4 未満ないし増加傾向を呈し

た群を CAVI 非改善群と定義し解析を進めた。非糖尿病症例において、他枝含む有意狭窄が、CAVI 改善群 1 例 (2.5%) に対し CAVI 非改善群 11 例 (15.7%) と後者で有意に多かった ($p= 0.0182$)。この影響もあり、心血管イベント全体としても、CAVI 改善群 3 例 (7.5%) に対し CAVI 非改善群 20 例 (28.6%) と後者で有意に多い傾向を認めた ($p= 0.0054$)。

5. 日常生活での活動度に関して、IPAQ スコアに基づき対面にて質問し Continuous Score を MET-min/week で算出し、解析した。糖尿病症例において、CAVI 改善群の IPAQ スコア 1685.7 ± 128.3 MET-min/week に対し、CAVI 非改善群の IPAQ スコア 1034.5 ± 128.3 MET-min/week と、CAVI 改善群で明らかに高い ($p= 0.0064$) 結果となった。

以上より、本論文では、CAVI を複数回測定しその長期的変動を追うことで心血管イベント発症を予測しうる可能性があること、日常作業活動度 IPAQ スコアが高いと糖尿病症例においては CAVI が改善することが示された。本研究では、虚血性心疾患に対し複数回の CAG を施行しその結果をフォローしている点、CAVI の単回測定ではなくその変動に注目している点、日常作業活動度を IPAQ スコアで定量して CAVI 変動との関連を解明している点で新規性が認められ、今後の虚血性心疾患治療に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。